

元気な人紹介



下原三千就さん

世羅の自然を生かした農林業をめざし

下原さんは4年前勤めていた職場の同僚が過労死し、次は自分かと長年勤めていた大手ゼネコンを、早期退職。郷土の青水に帰られ、農業に取組むためJA尾道市の農業塾に入塾され研修後、野菜を中心に80aの畑と山林を利用して、しいたけなどの栽培に取り組んでおられます。

元来、農業と林業は一体のもの、季節によりいろいろな物を生産されてきたが、現在は山林の殆どが荒れることを憂慮され、世羅の自然特性を生かした農林業を、都会の人々に紹介されています。

週末に自家用野菜作りを基に「山野草を食べる会」の企画・野菜やきのこづくりなどに、積極的に都市と農村の交流に、空き家の活用を図ろうと考えておられます。

また、荒れた山林の再生を図るため、自宅前の荒廃林2haを借りて、下刈りや雑木の整理をし、きのこ栽培、特に、シイタケ・なめたけ・平茸の栽培をされています。

その里山に子どもを招き、巣

箱の設置や、栽培指導もされ、シイタケ栽培では、ドリルも触ったことのない子どもたちも、楯木に穴を開けいきいきと作業をします。

JA尾道市のエリアは南北に広く標高差もあり気候風土も多様なので、この環境を利用して、北と南の農家の交流も面白いのではと、すでに何名かの人に声を掛けています。

一人が交わることで経済効果も上がる。そうした企画の種を蒔く人が今は必要だ。」と考えておられます。

これからも異業種経験から見た、農業経営を取入れる必要があると語られました。



子どもと植えました

世羅台地は花いっぱい



世羅高原農場



花夢の里口クタン

編集後記

歴史的な不況の中、新年度の方向付けをする三月定例会。屋外では春への歩みを順調に運んでいた様だ。

いざスタートの四月になって、一時とはいえ、冬へと逆戻りした。咲き始めた桜は、その刹那、開花を遅らせるものの、後へは戻らない。

諸々、課題をもちながら「いいよーにいこう」の予算を可決した。めざすは「活力再生」。明日の世羅町を夢見て対峙の姿勢は守りたい。

議会広報公聴
調査特別委員会

委員長／福田 義人
副委員長／松本 秀治
委員／西田美喜男・安佐 長秀
福田 豪・奥田 正和

議会を傍聴してみませんか
次回定例会は6月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。年賀状など（答礼のための自筆によるものを除く）を出すことも禁止されています。